

NTT ドコモと SK テレコムが、仮想化技術を活用した基地局装置に対する 技術的な展望を取りまとめたホワイトペーパーを公開 ～5G Evolution および 6G の実現に向けて技術協力～

株式会社 NTT ドコモ（以下、ドコモ）は、韓国を代表する通信事業者である SK テレコム社（以下、SKT）との技術協力の新たな成果として、仮想化技術を活用した基地局装置に対する技術的な展望を取りまとめたホワイトペーパーを共同作成し、2024年2月20日（火）に公開します。

今回のホワイトペーパーは、仮想化技術を用いた基地局装置（以下、vRAN 基地局装置）のモバイルネットワークへの導入について、両社のこれまでのネットワーク構築や運用の経験に基づき、通信事業者の視点からの技術的な展望をまとめています。基地局装置製造ベンダーに対する要望提示や通信事業者への技術的な知見共有も目的としています。

<主な内容>

- ・ vRAN 基地局装置の導入において鍵となる技術の発展の方向性に関する考察
 - 処理能力の更なる拡大や、消費電力の低減の重要性
 - 仮想化技術の特長機能（例：リソースプーリング、スケーリング、自動復旧）の早期実装の重要性
 - vRAN 基地局装置向けのインテグレーション技術・ツールの更なる充実化の重要性
- ・ vRAN 基地局装置の実装に鍵となる信号処理に関わるアクセラレーター技術に関する考察
 - 独自の検討に基づく、アクセラレーター構成の違いやネットワーク構成の違いを考慮した通信容量、消費電力、複雑性に関する技術的な分析

[仮想化技術を活用した基地局装置に対する技術的な展望を取りまとめたホワイトペーパーへのリンク](#)

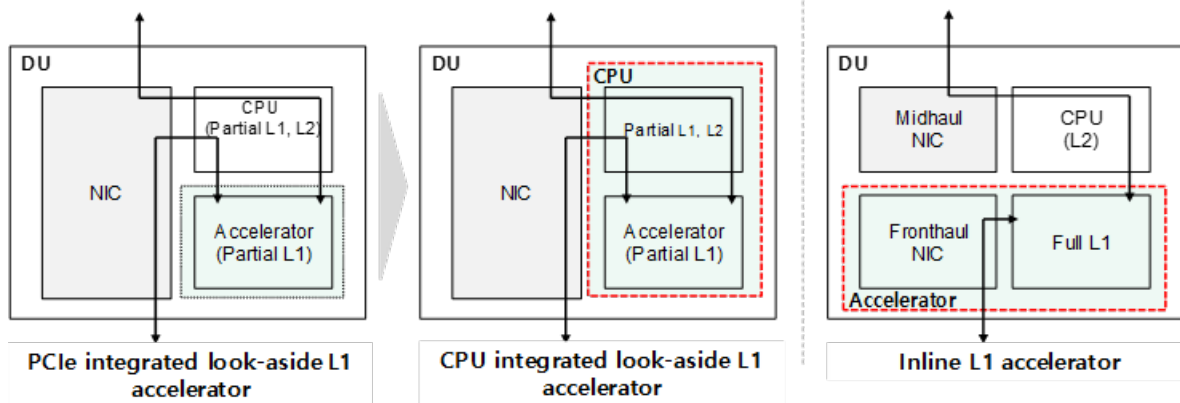


図. vRAN 基地局装置の信号処理を担うアクセラレーター技術の比較

SKT インフラテック室長のタッキー・ユ一氏は、次のように述べています。

「このホワイトペーパーは、両社の強力な協力に基づく重要な節目を表しており、昨年共同発行したモバイルネットワークの省電力化と6Gの要求条件に関するホワイトペーパーに続くものです。私たちは、ドコモのような世界をリードするオペレーターとの協力を継続し、将来のネットワークへの進化に向けて準備を進めていきます。」

ドコモとSKTは、2022年11月に基本合意書を締結^{※1}し、次世代通信インフラ技術分野において5G Evolutionおよび6Gに関わる技術検討を2社で協力し進めています。2023年2月には、モバイルネットワークの省電力化とその関連技術、および6Gの要求条件に関するホワイトペーパーを公開^{※2}しました。

今後もドコモとSKTは、5G Evolutionおよび6Gの実現に向けて、5Gのさらなる競争力強化や運用効率化、6Gの国際的な標準化活動や技術検証などさまざまな分野で技術協力を進め、得られた知見や革新的な技術を世界に発信してまいります。

※1 報道発表資料：メタバース、デジタルメディア分野および5G evolution、6Gの技術分野における協力に向けてSKテレコム社と基本合意（2022年11月21日）

https://www.docomo.ne.jp/info/news_release/2022/11/21_00.html

※2 報道発表資料（トピックス）：NTTドコモとSKテレコムが、モバイルネットワークの省電力化、および6Gの要求条件に関するホワイトペーパーを公開 ～5G Evolutionおよび6Gの実現に向けて技術協力～（2023年2月22日）

https://www.docomo.ne.jp/binary/pdf/info/news_release/topics_230222_00.pdf

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

株式会社NTTドコモ 無線アクセスデザイン部・RAN技術推進室
vran-white-paper@ml.nttdocomo.com